

## 「確かな学力を身につけ、自ら学ぼうとする生徒の育成」

～考え、話し合い、学び合う学習をとおして～



○学校名 春日部市立大沼中学校

○所在地 春日部市大沼6-75

○E-mail [numa-chu@educet.plala.or.jp](mailto:numa-chu@educet.plala.or.jp)

○URL <http://www.onumachu.av-center.kasukabe.saitama.jp/>

### 1 研究主題

「確かな学力を身につけ、自ら学ぼうとする生徒の育成」  
～考え、話し合い、学び合う学習をとおして～

#### (1) 研究主題の設定の理由

本校では、数年前まで授業規律や生活規範に係わる課題が少なくなく教室でまわりの友達の気持ちを考えて発言・行動したり、授業に落ち着いて協調して取り組むという面で課題が見られた。毎日の授業を中心とした教育活動を充実させ、指導を効果的に行うために、よりよい人間関係づくりに重点を置き、全教職員が一丸となって研修に取り組んだ。その中でも「黄金サイクルの確立」と題して全校で行った家庭学習帳は、生徒の学習への意識付けに有効であった。しかし、平成26年度の学校評価「保護者アンケート」では、「子どもは授業がわかりやすいと言っている」と答えた保護者は、66%で、依然として高くはない。昨年度、小学校6年生がスムーズに中学校の授業に慣れるよう、本校の教員が小学校に出向いて出前授業を試験的に行ったが、小中学校との連携を通して、教科学習の段差を小さくする必要がある。その上で、中学校の教科の専門性を発揮し、教師がしっかり教え生徒がきちんと学ぶ授業を実現していきたい。

これらを踏まえた上で、小中の円滑な連携を基盤にしつつ、自ら学ぼうとする生徒を育成するために、教師主導の一斉授業だけではなく、生徒が相互に学び合う学習方法を取り入れることで、確かな学力を身に付けさせていきたいと考えた。

#### (2) 研究の具体的内容

##### ア 研究の仮説

小中学校連携による「考え、話し合い、学び合う学習」を推進し、各教科において、生徒の実態に即した具体的目標を設定し、生徒が相互に学び合う学習方法について、発達の段階、学習内容等に応じた効果的活用方法を明らかにし、授業実践を行っていくことで、確かな学力を身に付け、自ら学ぼうとする生徒を育成することができるだろう。

##### イ 研修部会（3部会）

###### ① 授業研究部

「小学校での既習事項を生かし見通しのもてる授業づくり」を目標に、課題設定の明確化、交流、学習形態の工夫、思考ツールの積極的な活用を行う。また、小中連携を視野に入れ、教科の特性を生かした学習形態の工夫、



小学校で学習した内容を生かした基礎的・基本的な知識の徹底、単元・題材の1時間の授業の見通しを持たせた課題設定の工夫を行う。

**② 黄金サイクル・環境部**

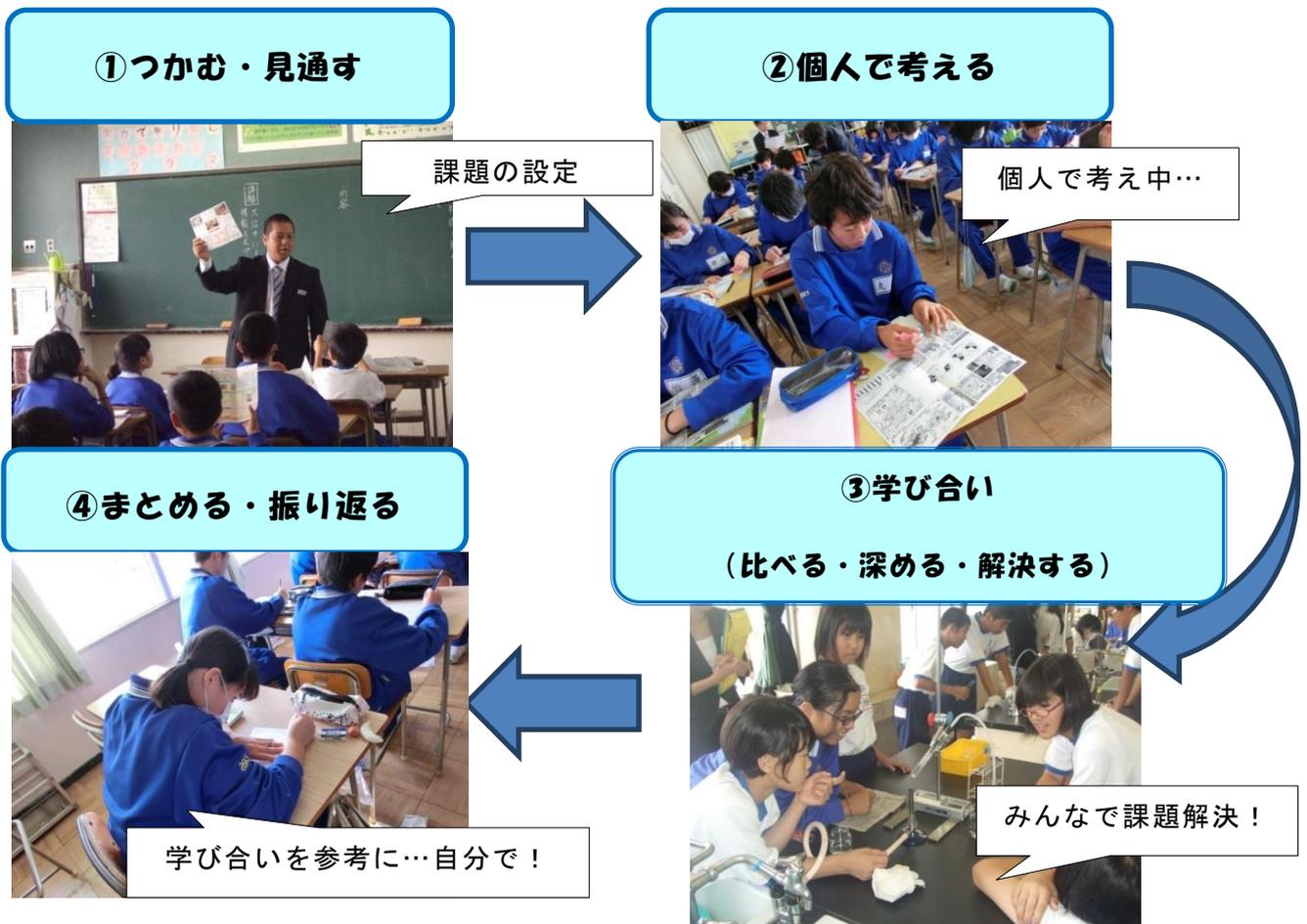
「黄金サイクルノートを活用し、継続した学習ができる生徒の育成」「授業規律を守り、進んで学習に取り組む生徒の育成」を目標に、黄金サイクルノートの提出の継続と、学習環境の整備・充実を図り、家庭学習通信、家庭学習ノートコンテストを実施する。また、授業規律の面では、チャイム着席や教室美化コンクール、掲示物を工夫した環境整備を行う。

**ウ 調査・統計部**

「学び合い学習の授業づくりのための調査・統計の実施」「保護者との連携を深めるための調査・統計の実施」を目標に、アンケート等の調査、分析を行う。また、全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査の結果を整理し、分析を行う。

**2 研究の実践**

**(1) 大沼中の学び合いの基本を重視した授業展開例**



**(2) 指導案の工夫**

学び合い学習の指導案の中に「考え、話し合い、学び合う学習」に関する方策を「①考え、まとめる工夫」、「②話し合い、学び合う工夫」について」に分けて、それぞれ具体的な方策について記述するようにした。

指導案のポイントとなる部分！

**②話し合い、学び合う工夫**  
思考ツールを使い、アイデアを出しやすくする。また、ウェビング・マップを使うことにより、アイデアを関連づけて膨らましやすくする。

### (3) 思考ツールの積極的活用

#### ア ウェビング法

(1年生国語「小学校6年生に大沼中学校を紹介しよう」)

小学校6年生に、中学校への興味や関心、入学する際の期待を膨らませるための、大沼中学校のリーフレットづくりを行った。大沼中学校に関わる情報を広げ、整理するためにウェビング法を活用した。

1年生は、小学生の頃からこのウェビング法を活用しているので、大変積極的に取り組める思考ツールの一つである。

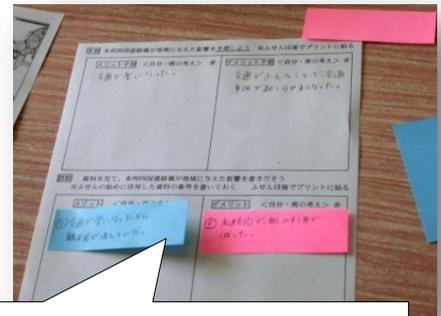


1年生が、小6時に作成したものです！

#### イ メリット・デメリットチャート

(2年生社会「本州四国連絡橋の開通が人々に与えた影響について」)

本州四国連絡橋の開通により、それが人々に与えた影響を複数の資料から読み取り、付箋に記入した。それをメリット・デメリットチャートに貼ることで、視覚化して整理をした。



付箋、チャートの活用です。

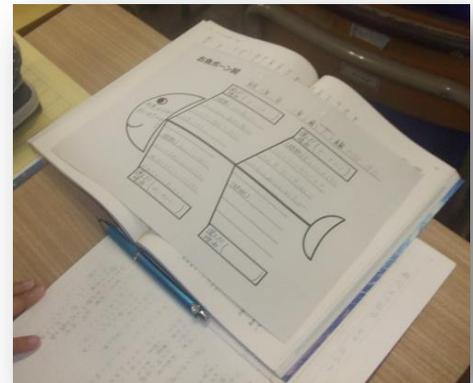
#### ウ フィッシュボーン図

(3年生国語「おくのほそ道」)

芭蕉の旅の目的を考え、芭蕉の心情をとらえる授業である。芭蕉はなぜ旅に出たのかを6つの視点から4つを各自が選び、それを選んだ根拠を骨の部分に書いた。

その後、グループでこのボーン図を持ちより、グループでも同じように旅の目的を考え合い、ボーン図にまとめた。

かわいい魚の図で、書くことが楽しいね。



### (4) 学習形態の工夫

小グループでの学習活動 (1年生数学)

関数の領域を苦手としている生徒が多いので、小グループを用いて話し合いながらグラフを書いたり、いくつかのグラフからその特徴を見つけ合った。小グループで教え合うことで理解を深めると共に言語活動の育成にもつなげた。

小グループでの学習活動は、積極的に全教科の授業の中に取り入れた。



わからないところは、教えてもらえて嬉しい！

## (5) グループ学習の支援

### ア 付箋

- ・考えや情報を整理する時に便利で、自由自在に動かすことができる。座標軸を使って整理することで、視点に沿った考えが促されるだけでなく、情報を可視化しながら整理できる。
- ・グループの中で、考えを簡単に、視覚的に共有することができる。

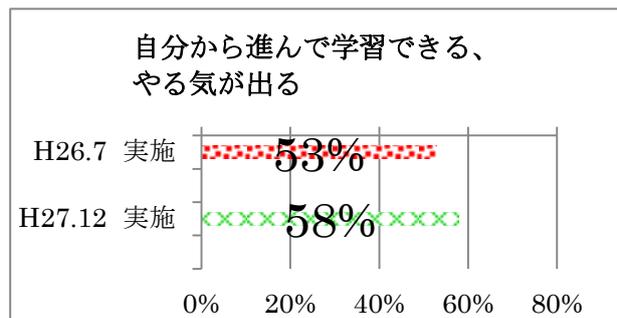
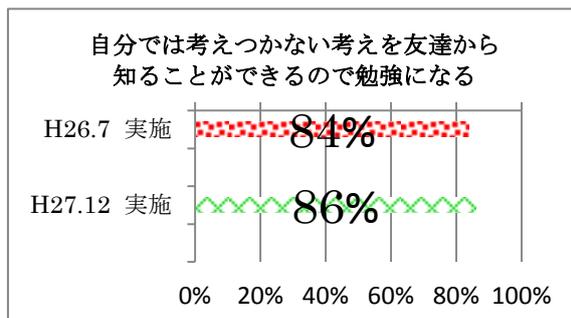
### イ ホワイトボード

- ・話し合いながら考えを書き直したり、修正したりする操作が簡単にできる。
- ・黒板に掲示することで、学級全体で情報を共有することができる。

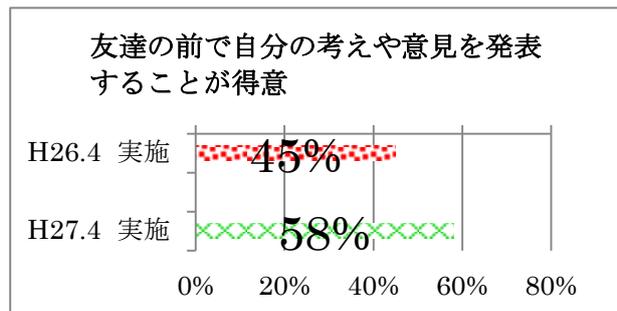
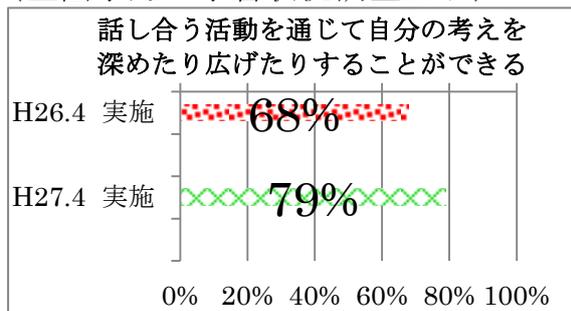


## 3 研究の成果と課題

(学び合い学習意識調査より)



(全国学力・学習状況調査より)



<成果と課題> (◎成果 ▲課題)

- ◎グループでの話し合い活動に慣れてくるようになり、自然と進行役が決まり、自分たちで積極的に話し合いを進めることができるようになった。
- ◎思考ツールを積極的に使うことで、言葉だけでは伝えることが難しいことも、可視化できて、新たな気づきに繋がられるようになった。
- ◎授業の中で、自らの考えを持ち、伝え合ったり学び合ったりする場面がみられるようになり、生徒の理解力も高まった。
- ◎学力に不安のある生徒も学び合いを通して表現する力が育ってきた。
- ◎学び合いの授業を行うことで学習に意欲的に取り組む生徒が増えてきた。
- ▲学びの価値のある、本気で考えたいような課題の設定をしていく。
- ▲思考ツール等、教員間で情報交換を行い、成功例や失敗例を共有化していく。
- ▲生徒の発達段階を踏まえ、グループだけにこだわらず、違った形での学び合いの方法(思考ツールや形態の工夫)を教員が研修していく必要がある。